

2024 年度
令和 6 年度
事業報告書

公益財団法人 水産無脊椎動物研究所

2024年度事業報告

I. 事業の状況

2024年度の事業計画に従い「助ける」「集める」「広める」事業を行った。研究者・学生の調査研究活動はコロナ禍以前の状況にほぼ戻り、順調に実施され、イベントも2件実施した。

1. 「助ける」研究助成事業

2024年度の研究助成応募数 92 課題（個別研究 58、育成研究 34）から、採択した 13 課題（個別研究 9、育成研究 4）、および育成研究 2 年目の 3 件に対して 4 月中旬、助成金 13,412,890 円を交付した。これによりこれまでに助成した課題数は 292 課題、助成金額の累計は 304,764,890 円となった。

上記課題はおおむね順調に研究を進めた。2019 年度育成研究助成 1 件は、報告書提出を延長していたが、今年度で提出し完了した。2023 年度育成研究助成 4 件のうち 1 件は 1 年目の報告書が未提出のままで、2 年目の交付が行えなかった。

今年度は臨時専門委員会を開催し、これからの研究助成のあり方や方針についてご意見をいただき議論をした。この意見や議論したことをもとに、今後の助成がより良いものとなるように、具体的な取り組みを検討していく。

2. 「集める」研究情報・資料・論文の収集、図書の交換、学会の聴講等

(1) 軟体動物後鰓類(ウミウシ類)を中心とする水棲の無脊椎動物に関する研究

情報と画像等、近年出版された研究情報や論文などを収集した。今年度は、茨城県でウミウシ類やヒラムシ類を中心に撮影、これまでに撮影した画像の整理と同定を進め、一部はウェブサイトの図鑑にアップした。

茨城県自然博物館が中心となって行なっている茨城県ひたちなか市での調査に継続的に参加し、生物分布情報の収集を行った。その成果の一部はフィールドガイドとして、今年度末に発行された。

出版物：茨城の磯の動物ガイド（2025.03 発行）、茨城の海産動物研究会編

(2) 資料・論文の収集と保管

出版された論文や本を収集し保管した。また、文献の PDF 化を進め、文献データベースの整備を進めた。

(3) 学会等の聴講

水棲の無脊椎動物全般の研究情報を収集するため、以下の学会年会、シンポジウムおよび講演会に参加し、情報を収集した。

日本生物地理学会、日本動物学会長崎大会、第 24 回日本分類学会連合公開シンポジウム、第 16 回藤原ナチュラルヒストリーシンポジウム、その他、オンライン研究会などに参加した。

このなかで、新しい研究情報や施設等の情報を得て、そのうちのいくつかについて「うみうし通信」に執筆依頼し、掲載した。

3. 「広める」研究情報や海の無脊椎動物の知識を普及啓発すること

(1) 機関誌「うみうし通信」の発行

当財団の機関誌であり、博物館・研究所等との交換図書にもなっている。今年度は No. 123～No. 126 までの 4 号を発行した。

印刷部数は 1,000 部、配布部数は約 700 部、うち、有料配布は「うみうしくらぶ」会員。無料配布は、国会図書館、官公庁、試験研究機関、博物館、水族館、大学などの図書交換先、および寄付者、財団賛助会員、財団関係者などである。

また、情報をより一般にも広めるため、著者の同意が得られたバックナンバーは、財団 WEB サイトで公開している。今年度は No. 119～126 を公開した。

(2) 「うみうしくらぶ」会員および財団賛助会員の維持と発展

うみうしくらぶの期末会員数は 227 名。うち法人会員は 7 団体、個人会員 220 名となった（個人会員の新加入 10 名、退会 13 名 1 団体、本人逝去や会費長期未納者 4 名）。退会の理由は退職などが挙げられる。新入会も順調に続いており、インターネットでホームページを見つけてという理由が多かった。近年のウミウシ類の人気の高まっている影響も考えられる。新規入会では、20～30 代が 4 名と若い世代の入会が続いている。

財団賛助会員は今年度末に 29 名となった（退会 1 名）。賛助会員数はほぼ横ばいであるため、今後、広報活動をしていく必要がある。

両会員の合計は 256 名（昨年より 18 名減）となり、やや減少した。

(3) 子供向けおよび大人向けの観察会の実施

2 つの観察会を計画し実施した。両観察会の報告をウェブサイトに掲載した。

① 「第 15 回親子で楽しむ海の生き物わくわくウォッチング」

5 月 11 日（土）に観音崎自然博物館（神奈川県横須賀市）で開催した。当日参加者は 44 名（大人 29 名、中学生以下 15 名）で、磯での生物観察と海岸で貝殻を拾って博物館へ持ち帰り、貝調べを行った。天気や海況もよかったため、観察を長めに行い、特にウミウシ類を多数観察することができた。

② 大人向け観察会「磯の生物勉強会（茨城県ひたちなか市）」

6 月 8 日（土）に茨城県ひたちなか市平磯海岸で実施した。磯の生物勉強会の日帰りイベントとして観察会を行った。参加者は中学生以上で 26 名であった。この観察会はミュージアムパーク茨城県自然博物館、茨城

の海産動物研究会、アクアワールド茨城県大洗水族館、地球レーベル、群馬県自然史博物館との共催および船の科学館「海の学びミュージアムサポート」の特別協力により実施した。

磯で採集をしたのち、各分類群の専門家が動物の解説を行った。また、希望者にはハマダンゴムシの観察もオプションとして行った。

(4) 財団 WEB サイトの拡充

WEB サイトにて 2023 年度研究助成採択課題および財団の情報公開をすみやかに行った。サイトコンテンツの更新を進め、うみうし通信の電子版の順次公開や図鑑写真の見直しなどを進めた。

財団メーリングリストを運用し、会員向けと非会員向け（イベント参加者と登録希望者）にイベント情報やその他情報の配信を行った。

(5) 生物分布情報の活用

財団が保管する生物の分布情報について、2020 年度より海洋研究開発機構（JAMSTEC）を窓口とする国連ユネスコ傘下の国際的なデータベース（OBIS）へのデータ提供をしている。

(6) 問い合わせ対応

水棲の無脊椎動物に関する 9 件の質問や画像の使用に関する問い合わせに対応した。問い合わせはテレビ局や博物館、個人からで、うち 2 件については当財団所有の画像を提供した。

(7) 他機関への協力

茨城県ひたちなか市で行われた茨城県自然博物館および地球レーベル主催の観察会に、共催として協力した。

- ・5 月 20 日：ミュージアムパーク茨城県自然博物館主催「磯の動物を観察しよう」
- ・5 月 21 日：地球レーベル主催「磯の観察会 2024」

II. 財団の運営

1. 理事会

● 第 1 回理事会 2024 年 5 月 17 日

- 決議事項
- ・ 2023 年度事業報告及び収支決算
 - ・ 定時評議員会の開催
 - ・ 財団事務所の移転

- 報告事項
- ・ 代表理事及び業務執行理事の職務執行の状況報告
 - ・ その他の報告事項

決議 決議の省略手続きによる

理事 6 名全員からの同意および監事から異議が無かったの

で理事会決議があったものとみなされた。

●第2回理事会 2024年6月3日

決議事項 ・代表理事及び業務執行理事の選任について
・主たる事務所の移転について

報告事項 ・代表理事及び業務執行理事の状況報告
・その他の報告事項

決議 決議の省略手続きによる
理事6名全員からの同意および監事から異議が無かったの
で理事会決議があったものとみなされた。

●第3回理事会 2025年3月10日

決議事項 ・2025年度 事業計画及び収支予算
・2025年度 研究助成課題の決定
・評議員会の開催
・専門委員の委嘱

報告事項 ・代表理事及び業務執行理事の状況報告
・公印記録簿、その他の報告事項

決議 決議の省略手続きによる
理事5名全員からの同意および監事から異議が無かったの
で理事会決議があったものとみなされた。

2. 評議員会

●定時評議員会 2024年6月3日

決議事項 ・2023年度事業報告及び収支決算の報告
・理事の選任

決議 ・評議員全員から書面による同意の意思表示を得たので決
議事項を可決する旨の評議員会の決議があったものとみ
なされた。

●第2回評議員会 2025年3月21日

決議事項 ・2025年度事業計画及び収支予算

決議 ・評議員全員から書面による同意の意思表示を得たので決
議事項を可決する旨の評議員会の決議があったものとみ
なされた。

3. 専門委員会

●臨時専門委員会 2024年6月17日

オフィス東京 A会議室

議 題 これからの助成の方針や審査の方向性について

●第1回専門委員会 2024年8月27日

オフィス東京 D会議室

議 題 2025年度助成課題募集要項の決定
延長課題および2023年度個別研究助成報告書の評価

●第2回専門委員会 2025年2月27日

オフィス東京 D会議室

議 題 2025年度研究助成課題の審査
理事会への推薦課題の決定

4. 事務的事項

1. 内閣府への提出と届出

2024年6月22日 理事等の変更届

2024年6月24日 「事業報告等の提出」電子申請

2025年3月25日 「事業計画書等に係る提出書」電子申請

2025年3月25日 理事等の変更届

2. 公告（情報公開）

HP上の「2023年度事業報告書」と「2024年度事業計画及び収支予算」を更新した。

3. 「広める」告知など

2024年度研究助成の採択課題をWEBサイトとうみうし通信 No. 123 で公表した。また、研究助成やうみうし通信発行の告知等はSNS（ツイッターとFacebook）を活用して広報した。

4. 資料の電子化など

事務所の移転に伴い、過去の事業資料や広報誌などの電子化を進めた。電子ファイルはリモートワーク対応のために整備したクラウドに保管することで、資料の整理および業務の効率化を図ることができる。

5. 寄付金など

財団WEBサイト内に開設した「ご支援のお願い」サイトによって、寄付や賛助会員が増加しつつある。うみうし通信や会員向け書面での案内、SNSでのサイト紹介などの広報活動を行い、総額344,000円（前年度からは約6.8万円の減少）の寄付をいただいた（賛助会員の会費による寄付を含む）。継続的にご支援をいただけるような工夫をしたい。

2024年度は22名の個人から寄付をいただいた。皆様に謹んでお礼申し上げます(お名前は、ご承諾いただいた方のみ記載)。

小谷中 茂樹 様、児玉 光士 様 ほか1名

[賛助会員] 青山 銀二 様、今野 誠一 様、小川 太遠 様、
河野 えり子 様、佐藤 正典 様、鈴木 美里 様、芹澤 和泉 様、
竹中 伸也 様、田中 綾 様、田中 正則 様、西川 輝昭 様、
本間 拓己 様、小野 進之介 様 ほか6名